

# 公開実用 昭和60— 96234

3/11

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-96234

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)7月1日

B 65 D 25/28

7312-3E

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 広口アルミ容器

⑯ 実 願 昭58-189451

⑰ 出 願 昭58(1983)12月7日

⑱ 考 案 者 山 崎 初 夫 大阪市淀川区三国本町3丁目8番6号

⑲ 出 願 人 伊藤金属工業株式会社 大阪市淀川区三国本町3丁目8番6号

⑳ 代 理 人 弁理士 吉 木 由 蔵

明 細 書

1. 考案の名称

広口アルミ容器

2. 実用新案登録請求の範囲

- 1 アルミ容器本体(1)の開口周端部であるフランジ部(2)に、手指が掛かる程度の断面形状を有する着色樹脂(3)を取着し、該着色樹脂(3)の上面又は下面に複数個の凸部(4)を配設したことを特徴とする広口アルミ容器。

3. 考案の詳細な説明

この考案は、飲食物や薬剤又は液状物等を入れるための広口アルミ容器に関するものである。

従来、一般にバット等と言われる広口のアルミ製容器は、一枚のアルミ板をプレスにより成型し、その開口周端部であるフランジ部は折り返すことにより形成されていた。

即ち、従来の広口アルミ容器は、すべてがアルミ材のみから形成されており、取手部がない為に手指で容易に保持することができないと共に

(1)

に、高温又は低温の飲食物等を入れると直接手指では持つことができず、また、フランジ部が衝撃によつて変形したり、その折り返した部分に汚物が入り込む為に不衛生となるものであつた。

そして更に、広口アルミ容器は使用しない場合には、その多数の容器を重ねて保管しておくのが一般的であるが、その重ねられた容器を必要によりノつづつ取ろうとすると、手指が掛る所がない上に、重ねられた容器と容器は残留水分等により密着していることが多く、容易に外すことができないと共に、容器の乾燥等も悪く不衛生となるものであつた。

本考案は、そのような欠点を除く目的でなされたものであり、その構成を図面について説明すれば、次の通りである。

この考案は、アルミ容器本体(1)の開口周端部であるフランジ部(2)に、手指が掛かる程度の断面形状を有する着色樹脂(3)を取着し、該着色樹脂(3)の上面又は下面に複数個の凸部(4)を配設し

(2)

たことを特徴とする広口アルミ容器である。

この考案の広口アルミ容器の一実施例を、図面について説明すれば次の通りである。

(1)はアルミ容器本体であり、該アルミ容器本体(1)は、アルミ材から成り、底部より大なるように開口されており、その開口周端部であるフランジ部(2)が外方向に湾出状に形成されている。

(3)は任意な色に着色されたポリプロピレン樹脂からなる着色樹脂であり、該着色樹脂(3)は、第3図で示すごとく手指が掛かる程度の断面形状を有すると共に、上記フランジ部(2)を覆うように加熱成型により取着されており、その下面には8つの凸部(4)が一体に成型されることにより配設されている。

上記着色樹脂(3)は、手指が容易に掛かる程度に、例えば断面が5mm角以上とすることが望ましく、また、凸部(4)は、1mm程度突出させれば容器を重ねた場合の密着は防止できるのであるが、容易に手指が掛かるように5mm程度突出さ

(3)

（3）  
 せることが望ましいものであり、材質及び形状等は任意に実施できるものである。

以上に説明したように、本考案は、着色樹脂の周囲のどこにおいても手指を容易に掛けることができると共に、その樹脂の部分が熱伝導を遮断できるので、容器本体が高温又は低温であつても直接手指により保持することができて手で持ち易いものであり、フランジ部は着色樹脂により保護されるために、汚物が入り込むこともなく、衝撃に対しても強いので変形を防止すると共に、他の物に対しても傷や変形の発生を防止できるものである。

また、本考案は、任意な色の着色樹脂を有するために、美的観覧にも優れたものであると共に、多種類の色の容器を準備すれば、用途や収納物の識別にもなり、また、凸部を有することにより、容器と容器を重ねても密着することなく、重ねたままで収納や洗浄や乾燥等ができると共に、容易に手指が掛けられるので取り外しにも便利である等の効果を有するものである

(4)

。 4. 図面の簡単な説明

図面はこの考案による広口アルミ容器の一実施例を示すものであり、第1図は平面図、第2図は正面図、第3図は一部拡大縦断面図である。

図面において、(1)はアルミ容器本体、(2)はフランジ部、(3)は着色樹脂、(4)は凸部を示すものである。

代理人弁理士 吉 木 由 蔵

Fig. 1

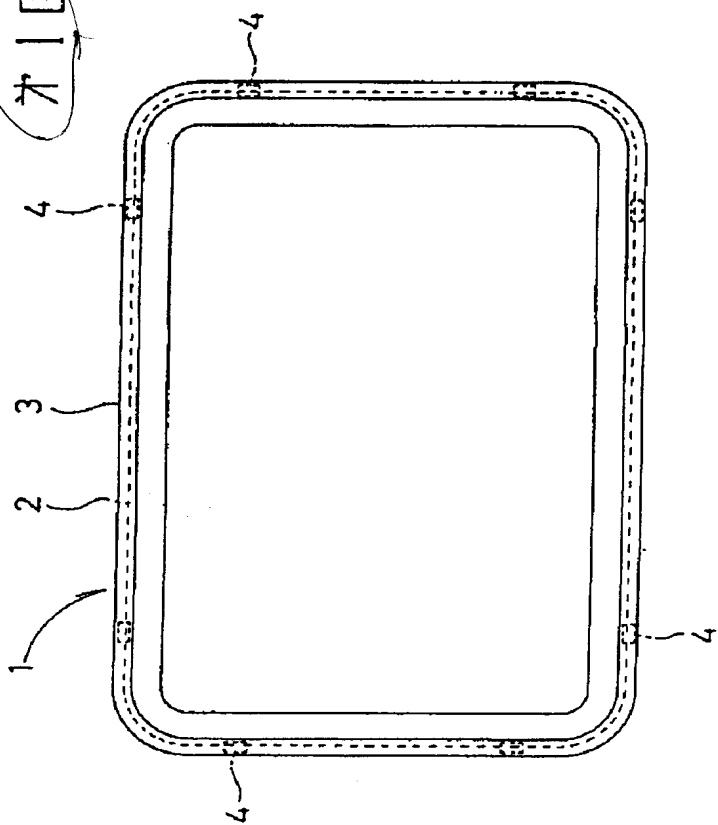


Fig. 3

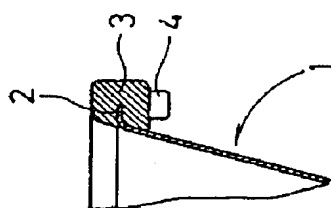
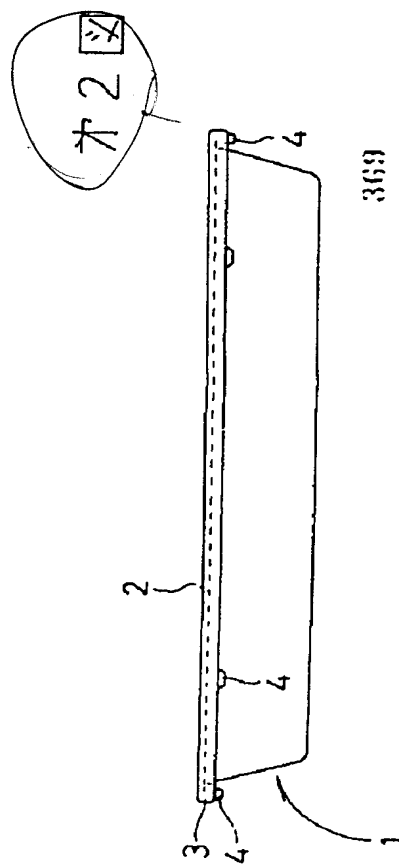


Fig. 2



368

実用60-96234

代理人 弁理士 吉木由蔵

Ref. 11